

「『高知の授業の未来を創る』推進プロジェクト事業 令和3年度高知の授業づくり講座」では、学習指導要領が目指す授業づくりを推し進めるとともに、日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い、自ら学び続け、共に高め合う教員の育成を目指し、拠点校を会場に教材研究会・授業研究会を1セットとして実施します。高知市の小学校英語の拠点校である久重小学校の第1回【教材研究会】・第2回【授業研究会】(新型コロナウイルス感染症対策から校内研修として実施)を中心に本単元の学びの様子を紹介いたします。

扱う言語材料

育成したい資質・能力

Can-Doリスト形式の学習到達目標

...is a ~ country(place).  
You can see/eat ~.  
It's ~.

「話すこと[発表]」

(ウ)身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

「書くこと」

(イ)自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や表現を用いて書くことができるようにする。

○世界の国や人々とのつながりの中に生きる自分たちについて、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。  
○世界の国や人々とのつながりの中に生きる自分たちについて、例示された文章から自分が書きたい文を選びながら、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができる。

単元ゴールの言語活動

ALTの県外の友達が高知市の魅力を知り、来てみたいと思ってもらえるように、高知市のおすすめスポットを紹介しよう。

単元のゴール活動で目指す児童の発話例

(端末上で写真を見せながら話している状況)  
Harimaya Bridge is a nice place.  
You can see a red bridge.  
It's nice. I like red. It's beautiful.  
You can eat *Kanzashi*.  
It's delicious.

B基準

単元計画

ゴールに向けて、高知市を紹介する表現を積み上げていく。(全8時間)

- 1時間目:単元ゴールの共有、自分の紹介する場所を決めて伝え合う
- 2時間目:自分のおすすめの場所と観光スポットを伝え合う
- 3時間目:おすすめの場所で食べられるものを伝え合う
- 4時間目:その場所のできるごとの感想を伝え合う
- 5時間目:おすすめの場所紹介の内容をより魅力的に伝える(本時)
- 6時間目:伝える内容を整理して、おすすめの場所紹介をする
- 7時間目:ALTの県外の友達に、おすすめの場所紹介のプレゼンをする
- 8時間目:プレゼン内容をもとに、おすすめの手紙を書く

教材研究会

本時までの流れ

協議の視点

- (1)単元ゴールはどのようなものがよいか(原案・代案①・②・その他)
- (2)本時の流れは「単元中盤の指導」として思考力・判断力・表現力を育成するために適切な流れになっているか

- 原案 ALTにおすすめの国について伝える
- 代案① 他校の児童と修学旅行先を伝え合う
- 代案② 高知市外の人たちに高知市の魅力をアピールする

単元ゴールの原案では、海外のことは児童よりALTの方が詳しいのではないかとという意見が出たことで伝え合う目的や必然性に課題が生まれました。よって代案①②を出して検討する教材研究会とし、同じ意見でグループになり、案についてのメリット・デメリットを出し合いました。それぞれに自然な議論が交わされたこともあり、視点②については十分な協議時間が取れなかったため、次回の授業研究会で見て頂くこととなりました。

ここがポイント

用語解説

1 言語活動  
実際に英語を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う活動。

2 中間指導

言語活動を通して言葉や身に付けていく過程において、児童が自身の活動を振り返って課題を見つけたら、良い例から解決策等を見出したたりできるようにするための意図的な指導のこと。

中間指導が大切にされている流れとは?

- 1. 言語活動(1回目)
- 2. 中間指導①(困ったことを共有(言いたかったけど言えなかったこと等) Good Model提示等)
- 3. 言語活動(2回目)
- 4. 中間指導②(①同様、必要な指導を繰り返す。)

①単元ゴールを共有

ALTの県外の友達に高知市のおすすめスポットを紹介しよう。

HRTやALTがおすすめスポットの紹介の仕方をデモンストレーションして知らせることで、児童はゴールの言語活動のイメージ・見通しを持ち、意欲的に取り組むことができました。

②教科書の内容を学習

Chant や歌, Small Talkなどを通して、聞き慣れたり、言い慣れたりしながら、教科書に沿って、おすすめの本の言い方を学びました。

③言語活動を繰り返す

1人1台端末を有効活用し、高知市のおすすめスポットのプレゼン資料を作成。言語活動のやり取りを積み重ね、既習を活用する力と相手意識を養っていくことができました。

④中間指導とマッピング

中間指導ではHRTとALTが協力しながら、児童の困り感に寄り添って、一緒に言い方を考えたり、よいモデルを提示することによって自分の表現を見直したりしていました。

伝わりやすくするために、どんな順番で話せばよいかを思考するツールとしてマッピングを使用しました。書き方も丁寧に共有していました。



(HRT 岡崎先生)  
Kochi is a nice place.  
You can see animals.  
Very cute!...

(ALT Steven先生)  
U.K. is a nice country.  
You can see the Big Ben.  
It's beautiful. You can eat fish and chips. It's delicious.



ALTの県外の友達にどこを紹介したら、行ってみたいと思うか、どんな紹介をしたら、高知市の魅力が伝わるか、考えていました。



英語で言えなかった表現を確認するときも「食べられるもの言うときは?(リズムをとって)You can eat pizza.だったね。紹介するALTの友達に食べてもらいたいね!というように常に相手意識を持たせる声掛けをしていました。

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 視学官 直山 木綿子先生



視点(1)について

単元ゴールの1言語活動はその目的・場面・状況などの設定が大切!目の前の児童がより意欲的に活動できるように具体的な相手意識を持たせる工夫も必要。

代案②を「ALTの友だちに高知市の魅力をアピールする」にしてはどうか。地元である高知市のことをぜひ伝えてほしい。ただし海外のことをよく知ることによって日本のよさが見えてくる。そこも大事にしてほしい。

視点(2)について

2中間指導が大切にされている流れは良い。大事なことは自分たちの視点で高知のよいところをただ羅列するのではなく、相手意識を持ち、そのニーズに沿うこと。そのためには県外に住むALTの友達の趣味や好きなものなどの情報をあらかじめ示すことが重要。そのような設定にすることで子どもの思考がより働くのではないかと。

思考は母語でするので、思考を支えるのは母語である日本語である。日本語の力をよりよく付けるために英語を勉強すると良い。

「書くこと」の評価について

児童の表現例  
○Hirome is a nice place.  
×Hiromeisaniceplace.

<<単語と単語の間に適切なスペースがあるかないか>>  
「知識・技能」⇒文字を正しく書き写している。(正しく使っているか)  
「思考・判断・表現」⇒手紙なので相手を読みやすいように書き写している。(相手意識)

単元を通して語彙や表現が正しく使っているかや、相手意識について指導し、評価場面では2つの観点から見取る。

授業研究会(6月22日実施) 本時(5/8時間目)

事後研修会

提案授業 本時のゴール:質問をしながら、もっと聞きたくなるようなスピーチにしよう!

1. 挨拶 2. チャンツ 3. Small Talk



「アイスの味は？」と聞くとときは何て言えばいいかな?

“Topping”を使ったらどうかな?

It's *Hoji-cha*.

1回目 担任のスピーチ  
Higashi-tsumo is a nice place. You can see many cows. You can eat ice cream. It's delicious. You can enjoy zip-line.

2回目  
Higashi-tsumo is a nice place. You can see many cows. You can eat *Hoji-cha* ice cream. It's delicious. You can enjoy zip-line.  
(やり取りを通して増えた情報を加えている。)

チャンツにジェスチャーをつけ、内容を体で表現しながら言い慣れている様子。

担任のおすすめの場所紹介を聞き、質問をグループで相談⇒アイスの味が知りたかったので“*What topping?*”と尋ねる。

1回目のスピーチにはなかったアイスの味について質問をすることで、2回目のスピーチに付け加えられ、内容が深まることを体感する。



4. 今日のめあて



ゴールを確認し、マッピングの情報の増やし方も全体で確認する。



タブレット端末で作ったプレゼン資料を使ってスピーチし、質問や感想に答える

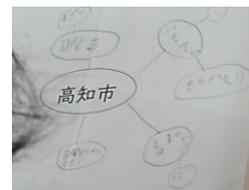


中間指導で全体共有したことをもとに、自分のスピーチ内容を再考し、内容を深めていくことを繰り返す。

スピーチ①  
中間指導①  
Good Modelの提示(質問の大切さを確認)  
↓  
スピーチ②  
中間指導②  
困ったことを共有(言いたかったけれど言えなかったこと等)  
↓  
スピーチ③

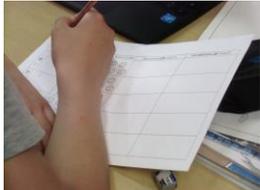
5→6を繰り返しながらスピーチの内容が深まっていく

7. マッピング



質問されて発言内容が膨らんだところをマッピングに追加。⇒子どもたちは視覚的にも詳しくなったことを実感する。

8. 振り返り



どんなことが付け加えられたかを振り返りに書く。



What is sandwiches topping?

Ham, egg, ...



“Topping” means “filling”!

Let's TalkではSmall Talkで共有した“topping”を早くも使っている子どもがいました。中間指導ではそのことを価値付けてほめた上で、正しくは“filling”ということもALTが伝えていました。日頃から中間指導を丁寧に行っているからこそ、児童が自然に学んだことを次の活動に活かしていることが伺える場面でした。

研究協議

<視点>本時の流れは「単元中盤の指導」として、思考力・判断力・表現力を育成するために適切な流れとなっていたか。

<指導者の効果的な指導>

- 岡崎先生のデモンストレーションが良かった。
- 振り返りやスピーチの際にマッピングを有効活用していた。
- 中間指導で「質問が難しいときはコメントだけでもOK!」「Do you like いも天?でOK!」という声掛けで子どもが安心できた。
- 困ったことを質問して子どもとともに考えるのが良かった。
- タブレットの活用が有効だった。
- 相手を意識させる声掛けが授業を通してずっとなされていた。

<改善案>

- Small Talkで互いに質問する時間が短かった。⇒質問の大切さを考えるためにも、もう少し長く取ってはどうか。
- 本時の言語活動において、相手意識は明確だった⇒ALTの友達の具体的な紹介がどこかにあると、「あの人に伝えたい」という気持ちが生まれ、より相手意識ができると思う。
- 最後にマッピングにどんな付け加えがあったかの共有がなかった。⇒あれば改善が可視化されてよかった。

講師講話

【文部科学省 初等中等教育局 視学官 直山 木綿子先生から】



☆外国語の学習に必要な2つのこと☆

- ①時間がかかる  
(母語でもすぐに習得したわけではない。母語より触れる時間が少ない分、習得には時間が必要。)
- ②間違いながら学ぶもの  
(「教室は間違えう所であり、それを解決するのが教室である」ということを常に子どもに伝えることで、子どもは安心感をもって意欲的に取り組める。)

☆互いのスピーチ後すぐに質問がでなかった要因は? ☆  
理由①質問する表現が分からない。②何を聞けばいいか分からない。(聞く必然性がない)⇒ALTが子どもの発表に質問すると、それがモデルになり、既習表現を思い出せる。質問できる雰囲気を作る。

☆ICTの活用について☆

プレゼン資料を見せる道具としてICTの活用ができてはいたが、これは紙でもできる活用の仕方。GIGAスクール構想のもとでの一人一台端末の活用の仕方としては、もう一歩進んでそれぞれのプレゼン資料をクラウドにあげて、それをお互いが見合せて自分のものをよりよくできたり、振り返りを指導者に送信し、その場で大型画面に映し出し、可視化することで即時性も高まって有効である。



○直山先生や他の先生方から様々なご意見を頂き、大変勉強になった。中間指導については日頃から意識し、低学年から高学年を通して学校全体で大切に取り組んでおり、やり方も定着しつつある。  
○付けたい力はたくさんあるが、全てを1時間の授業に詰め込んでしまうと大変。今日の授業ではここに焦点をあてる、明日はここというように、単元全体で力が付いていくように意識している。  
○ICTの活用方法について直山先生にご示唆頂いたの、今後の授業でチャレンジしていきたい。

【授業者 岡崎教諭から】